

平成 26 年度

発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業

成果報告書（概要版）

実施機関名（伊那市教育委員会）

1. テーマ

読み書きにつまずきをもつ、またはその可能性のある児童を早期に発見し、通常学級で個に寄り添った支援を行えるよう、指導方法や授業形態を工夫し、すべての児童の読み書きの基礎的な力をつける。あわせて継続的な支援を受けられるよう組織的な支援体制を確立する。

2. 問題意識・提案背景

市の相談室に寄せられる不登校、昼夜逆転、ゲーム依存等の相談から、相談員が児童の基本的な読み書き能力習得のつまずきに気づくことも多く、伊那市では平成24年度よりスクリーニング検査の内容や支援方法を検討してきた。読み書きのつまずきへの教員の理解は乏しく、従来の指導方法が継続されていくか、いつか習得できるだろうとそのままになってしまう現状があった。また、保護者が気づいたとしても、医療・療育機関等の資源がなく、家庭内でのサポートに留まっている。そこで、読み書きのつまずきや、その可能性のある児童が通常学級内で支援を受けられるよう本事業を提案した。

3. 指定校について

指定校名：伊那市立伊那北小学校												
学級数及び児童生徒数（平成26年11月1日現在）												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	48	2	90	3	71	3	74	3	75	3	93	3
特別支援学級	0		5		3		8		2		7	
通級による指導の対象者数	0		3		3		1		0		0	
教職員数 36名												
校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教員	スクールカウンセラー	その他	計		
1	1	23	1	6	0	1	3	0	12	48		

4. 指定校における取組概要

- (1) 適切な実態把握等による早期支援の実施
 - ア. 全児童の読み書きの実態を把握するためのスクリーニング検査の実施
(ひらがな・漢字の聴写課題 1学年下の漢字習得状況)
- (2) 一斉指導における指導方法の改善にむけた取り組み
 - ア. 多層指導モデル MIM 研修会への全職員参加(5月)
 - イ. 1年生のひらがな習得時期に MIM の指導法を導入
 - ウ. 読みの力、語彙力、言葉への興味を高めるための「国語道場」の開設
 - エ. 漢字指導に関わる校内研修会の実施(6月・10月)
 - オ. 指導方法の改善につなげるための、漢字の誤りパターン分析
 - カ. 漢字の指導教材の工夫

- (3) 一人一人の教育的ニーズに応じた個別指導に特化した取り組み
 - ア. 読み書きのつまずきの程度、誤りパターンに応じた小集団での補習指導の実施（放課後・朝学習）
- (4) 発達障害支援アドバイザー（1名）について
 - ア. 小集団での指導について、支援内容のアドバイス
 - イ. 小集団指導での個別支援（月4回 1回の平均指導人数3名）

5. 主な成果

- (1) スクリーニング検査により、読み書きの習得が困難な児童を客観的に把握でき、通常学級での小集団での補習指導へ2年生22名、3年生13名、4年生2名、5年生3名6年生3名をつなげることができた。
- (2) MIM研修をモデル校の全教職員が受けたことで、MIMの理論や方法を知るだけでなく、読み書きの能力を高めるためには、語彙力や話し言葉などの言語能力の豊かさも大切であることが理解できた。MIMの一環で校長室に設けた「国語道場」を学校全体で盛り上げるなどの動きがみられたことは大きな成果といえる。
- (3) MIMは、MIM-PMというアセスメントにより、指導の効果がすぐに担任にフィードバックされるため、教員の「つまずきがみられる子」への認識が高まり、MIM指導時間以外の日常的な指導でもより細かい指導が子どもへ届いたといえる。
- (4) 小集団の補習指導のなかで、個々の達成レベルでほめられたり、できたことを認められ、子どもの読み書きへの取り組み意欲が高まった。

6. 今後の課題と対応

- (1) 漢字について、スクリーニング検査と誤りのパターン分析をし、児童の個々のつまずきの内容や支援の方法はわかったが、個々のニーズに一斉授業や通常学級でどうこたえていくのか、方略を見出すことができなかった。村井敏宏先生の「部首を意識した指導」や漢字指導研修から「語彙を増やす関わり」等を部分的に取り入れたが、系統的な指導方法が提案できなかった。また漢字指導研修会を2回実施し、教員間で指導方法の情報交換等を行い、ただくり返し練習するだけでは身に付きにくい児童がいることが理解されたが、理解に留まり、指導には結びつかなかった。平成27年度は、モデル校の一校で漢字の指導方法に力を入れ研究する。
- (2) 平成26年度のモデル校は、通級指導教室を有し、専門性の高い職員が配置されていたので、本事業をリードし、成果につなげていくことができた。平成27年度は、市内全小学校へモデル校の取り組みを拡げていくため、先行したモデル校への見学・相談を随時行える体制や、各校に読み書きリーダーをつくる等の組織的な体制づくりも必要である。

7. 問い合わせ先

組織名：伊那市教育委員会

- (1) 担当部署 伊那市教育委員会学校教育課子ども相談係
- (2) 所在地 長野県伊那市山寺 1499-7
- (3) 電話番号 0265-72-0999
- (4) FAX 番号 0265-72-3666
- (5) メールアドレス ikodomo@inacity.jp